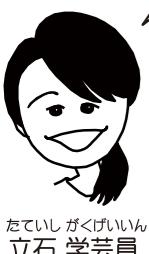


トのみなさま、ありがとうございました。アーティス  
トの方にオンラインで参加いただき、  
インタビューもできました。アーティス  
トのみなさま、ありがとうございました。  
今年度初めての取材日でした。  
興味深々。みんなの描いた絵や文章、どれも素敵ですね！



立石 学芸員



## 3人の作品がつながり森になる



細矢 学芸員

「ボン・ヴォヤージュ」とは、「よい旅を」という意味をもつフランス語です。展示室を「アートの森」に見立て、そこを旅する感覚で見てまわることのできるこの展覧会。作品を手掛けたのは、森迫暁夫さん、藤沢レオさん、吉田傑さんの3人です。それぞれ身近な素材を用いながら、独創的な展示空間を作りあげてくださいました。



## 作家にインタビュー!!

今回の展示について、吉田傑さん、藤沢レオさん、森迫暁夫さんにインタビューをしました！



## 吉田傑さん『ダンボールを使い分け、大小様々な作品を制作します』

記者／制作期間はどのくらいですか？

吉田さん／大きい動物は、だいたい4~5か月です。小さい鳥などだと、1日ほどでできます。

記者／どのくらいダンボールを使っているのですか？

吉田さん／大きいものだと50箱ほどつかいます。小さい動物は、半箱でできるものもあります。

記者／どんな場所で作ったのですか？

吉田さん／家でも作りましたが、広い場所で作りたかったので、大学で作ったりもしました。

## 森迫暁夫さん『アイデアは、息をするようにでてきます』

記者／キャラクターのアイデアはたくさんでてくるのですか？

森迫さん／はい。もう息をするようにでてきますよ。

記者／『茶の湯』は、どんなことを考えながら作ったのですか？

森迫さん／お茶を点てるのも宇宙だと考えるのがすごいと思い、作り

ました。上のほうには星空があったり、火や森もあります。



## 藤沢レオさん『モエレ沼の木を使って制作』

記者／『曙、黄昏、青い島』の元の絵の色は何色なのですか？

レオさん／もともとは、ピンク、青、緑です。あの作品は、モエレ沼公園で作りました。材料もモエレ沼公園の木をつかって

ます。オニグルミの木は、自分で作った石おので切りました。



イラスト 大屋 歩夢